



環境経営レポート

株式会社清・さやか

2022 年度

(対象期間: 2022 年10月1日～ 2023 年9 月30日)



SAYAKA!

作成日: 2023年11月30日

目 次

項 目	ページ
ごあいさつ	3
環境経営方針	3
組織の概要	4
事業・製品の紹介	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
主な環境負荷の実績	5
環境経営目標及びその実績	6
環境経営計画の取組結果とその評価	6
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	10
代表者による全体の評価と見直し・指示	10
これまでの環境活動の紹介	10

当社のイメージキャラクターです。

「清らか・爽やか」「技術・テクノロジー・革新」

「温故知新」などをイメージしています。

社内で当社に関するイメージを募集し、広島の
障害者就労継続支援事業所にデザイン発注をして
できあがりしました。サービス発注についても
ただ形にするだけでなく、地域の障害者支援施設に
依頼することで、地域・福祉分野への貢献も目指し、
「無駄の無い」サービスにできるよう
常日頃から心掛けております。

ごあいさつ

当社では創業より、広島市安佐北区を拠点に、周辺地域に根差したサービスをご提供して参りました。地域への御恩返しのため、道路清掃や配食ボランティア、障害者支援や職場実習なども行って参りましたが、事業活動における「環境負荷低減活動」もその御恩返しの一つになろうかと存じます。本取組みをきっかけに、社内の全員が一丸となって、益々地域に愛されるよう全社一同尽力致します。

環境経営方針

環境経営理念

基本理念

当社は、ビルメンテナンスを主とする事業活動において、地球環境の保全が社会共通の重要課題であることを認識し、環境ならびに温暖化対策・省エネに配慮した企業活動を行い、より豊かな社会の発展に貢献します。

環境保全への行動指針

環境マネジメントシステムを確立し、運用することによって、継続的改善を誓約します。

1. 二酸化炭素排出量を削減します。
重点分野として、ガソリン及び電気使用量削減を推進します。
2. 廃棄物排出量の削減及び廃棄物の再生利用を推進します。
3. 水使用量の削減を推進します。
4. 環境に配慮したサービスの提供を推進します。
(例：化学物質を含まない洗剤の使用)
5. 化学物質の適正管理を推進します。
6. 地域の美化活動、教育活動に積極的に参加します。
7. 環境関連法規等を遵守します。
8. 本方針を全従業員に周知徹底します。



制定日：2022年10月1日

代表取締役社長 三木 明枝

組 織 の 概 要

更新日：2023年11月30日

(1) 名称及び代表者名
株式会社清・さやか
代表取締役社長 三木 明枝

(2) 所在地
本 社 〒731-3361 広島県広島市安佐北区あさひが丘3丁目18番6号

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 企画開発室長 沖 勇太 TEL:082-838-0011
担当者 企画開発室 鈴木 美香 FAX:082-838-0015
E-mail: info@sayaka-sayaka.jp

(4) 事業内容
ビルメンテナンス業、飲食店運営

(5) 事業の規模

売上高	10,000 万円		
	本 社	飲食店	合 計
従業員	95 名	2 名	97 名
延べ床面積	220 m ²	110 m ²	330 m ²

(6) 事業年度 10 月 1 日 ~ 9 月 30 日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 株式会社清・さやか
対象事業所： 本 社
対 象 外： 飲 食 店（2025年度に範囲拡大予定）
活 動： ビルメンテナンス業

□事業や製品(商品)の紹介

一般清掃



新築清掃



草刈剪定



測定管理

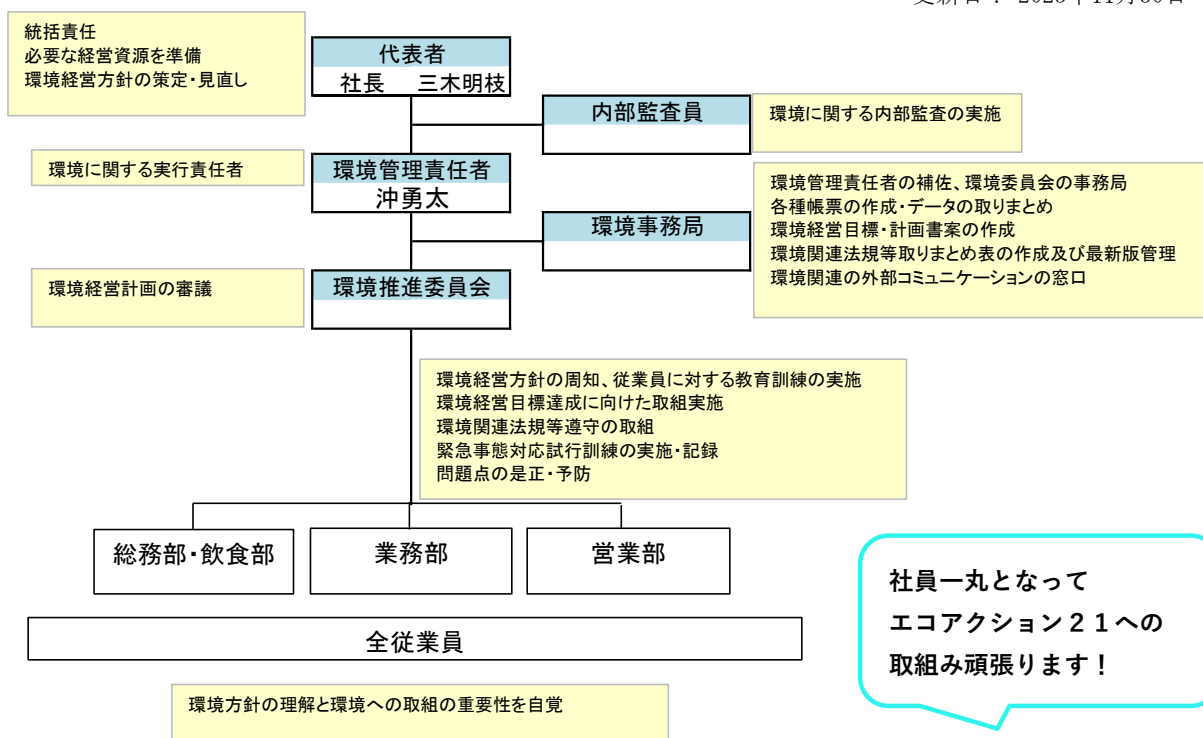


環境に直結する事業活動ばかりです！
サービスは「人」が主体ですから、
環境対策には、社員1人1人の意識が
重要になってきます！



環境経営組織及び役割・責任・権限

更新日：2023年11月30日



主な環境負荷の実績

項 目	単位		2021年	2022年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂		65,381	66,247
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	k g		1,200	1,090
産業廃棄物排出量	k g		0	0
水使用量	m ³		907	876

※電力の二酸化炭素排出係数(2020年調整後)

※2021年度のデータは期初から期の途中まで

0.521 0.521 kg-CO₂/kWh

環境経営目標及びその実績

□環境経営目標及びその実績

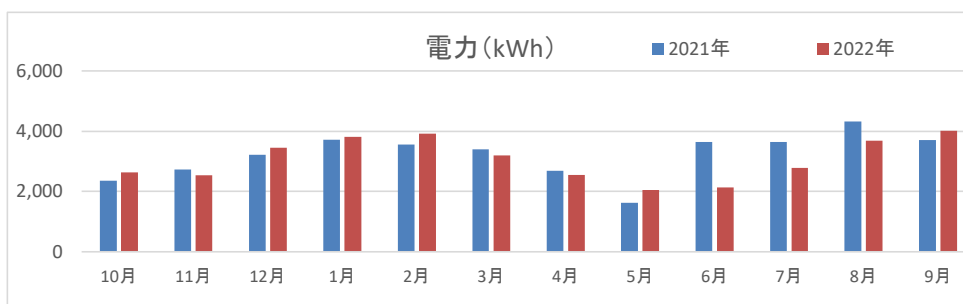
年 度 項 目		基準値	2022年		評価	2023年	2024年
		(基準年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO2	19,430	19,236	19,143	○	19,042	18,847
	基準年度比	2021年	99%	99%		98%	97%
	原単位	kWh/千円	0.317	0.314	0.283	○	0.311
LPガスによる二酸化炭素削減	kg-CO2	5,421	5,367		×	5,313	5,259
	基準年度比	2021年	99%	99%		98%	97%
	原単位	m³/千円	0.000	0.000	0.000	×	0.000
自動車燃料による二酸化炭素削減（ガソリン）	kg-CO2	40,530	40,124	41,658	×	39,719	39,314
	基準年度比	2021年	99%	101%		98%	97%
	10カ月二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	53,908	49,748	54,235	×	64,073
一般廃棄物の削減	kg	1,200	1,152	1,090	○	1,140	1,128
	基準年度比	2021年	96%	92%		95%	94%
	食品廃棄物の削減	kg	1,200	1,080			960
	基準年度比	2021年	0.9			0.8	0.7
水道水の削減	m³	907	898			889	880
	基準年度比	2021年	99%	97%		98%	97%
	化学物質使用量適正管理	行動目標(次項による)					
環境に配慮した製品・サービスへの取り組み	行動目標(次項による)						
課題を解決しチャンスを活かす取組	行動目標(次項による)						

環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画

数値目標: ○達成 ×未達成

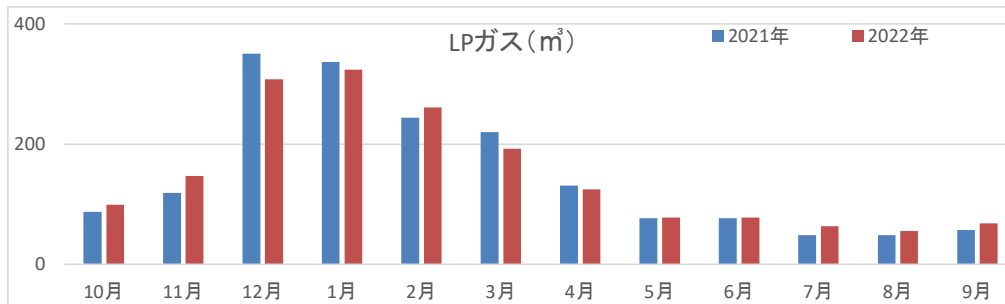
活動: ◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	本業の清掃業務における事務作業が近年増加しており、それに対応するため部署新設と増員により、事務所内の執務スペースを増設したため電灯・電力とも使用対象エリア・使用時間が増加した。今後は全体の使用量増加を念頭に、新エリアも含めた一律の節電対策の呼びかけと古い空調機器の更新も検討することで電力カットを目指す。
原単位目標	○	
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	△	
・不要照明の消灯	○	
・働き方見直しによる残業時間の短縮	○	
・間引き照明の実施	○	



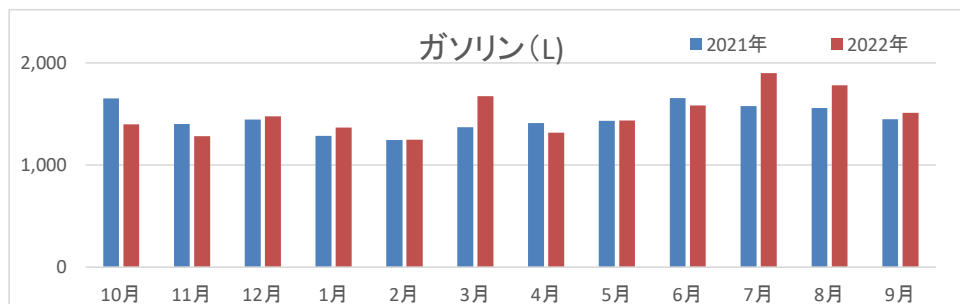
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2021年	2,353	2,721	3,212	3,720	3,555	3,388	2,690	1,625	3,642	3,642	4,325	3,704
2022年	2,634	2,539	3,446	3,821	3,913	3,197	2,540	2,043	2,139	2,782	3,677	4,012

LPガスによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	事務所内の執務スペースを増設したため、使用対象エリア・使用時間が増加した。電力同様に、全体の使用量増加を念頭に、新エリアも含めた一律の削減対策の呼びかけと、業務においても主に冬場の道具等の洗浄で使用があるため、節水と併せて使用量の削減を図る。
・冬季以外は給湯を停止する	△	
・蒸気・温水配管の保温修理	×	
・温水温度の適正化	△	
0		



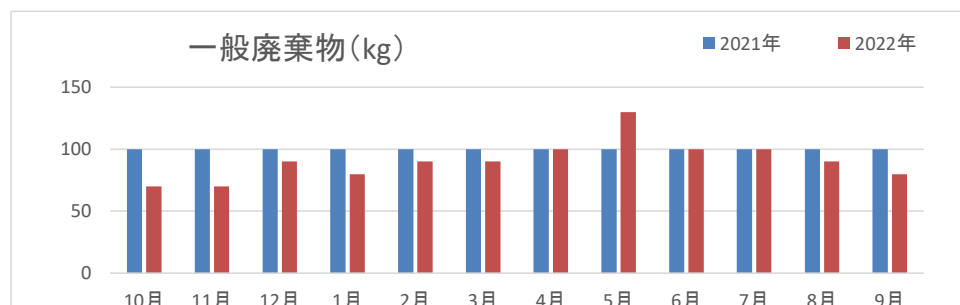
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2021年	88	119	351	337	244	220	131	77	77	49	48	57
2022年	99	147	308	324	261	192	125	78	78	64	56	68

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	営業、業務とも日々使用している車両のため、移動ルートや乗合い等による移動方法の効率化により、結果も出やすい項目となる。
・計画的な作業スケジュールを立てる	○	2022年に社内体制の変化があり、移動方法についてもより効率化を目指した方向性を打ち出した。同方針を継続することで、年間の削減を目指す。
・効率的なルートで営業、現場移動を行う	○	
・エリア別営業活動の見直し	×	



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2021年	1,650	1,401	1,446	1,286	1,241	1,371	1,409	1,432	1,653	1,577	1,557	1,448
2022年	1,398	1,280	1,474	1,366	1,247	1,672	1,316	1,433	1,582	1,898	1,781	1,509

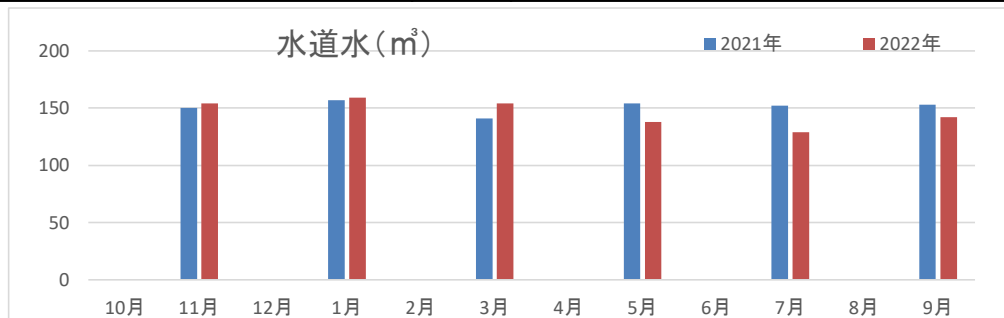
一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	2022年より、一般・食品廃棄物の計測用に新たに秤を導入した。
・分別の徹底	○	既にスタッフ間で、毎日の計測週間と、委員と協力した記録表の作成・運用を行っており、今後もより細かなデータ収集により、具体的な対策を検討していく。
・廃棄物の重量を正確に把握する	○	
・シュレッダー処理紙のリサイクル	△	
0		



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2021年	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
2022年	70	70	90	80	90	90	100	130	100	100	90	80



水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	2022年に、水道水から専用液を生み出すアルカリイオン水生成装置を導入したことにより、洗剤に代わり、以後使用量の増加が見込まれる。業務以外の、事務所での使用や洗車等において節水を周知することで、全体として少しでも削減できるよう対策を行う。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	△	
・手洗い時、洗い物において節水を励行す	○	
・倉庫内の蛇口（水栓）をシャワー型にす	△	



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2021年	0	150	0	157	0	141	0	154	0	152	0	153
2022年	0	154	0	159	0	154	0	138	0	129	0	142

化学物質使用量適正管理	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	-	特別な作業時にPRTR法対象の化学物質を使用することがあり、業務の受注状況により、使用量が大きく変動する。使用・保管方法について、社内ルールと関係法に注意し、適切な運用方法にて、適正管理を行う方針としている。
・有害性物質の表示の徹底	○	
・必要量だけ購入する	○	
・労働安全衛生法に適応した物質の管理	○	
・リスクアセスメントに応じた使用・管理	○	



環境に配慮した製品・サービスへの取り組み	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・持続可能な原材料の採用	○	アルカリイオン水生成装置の導入により、環境負荷が少なく、持続可能な洗剤生成が可能となった。エコ活動へのきっかけにもなった装置の導入により会社のエコ活動の機運も高まっている。業務において仕事を行うだけ発生する廃水の処理については近年、パウダーと混合して固めることで一般廃棄としており、廃棄物の重量は増えるが廃水への負荷は低減できている。
・廃水負荷の少ない洗剤の使用	○	
・分解・分別しやすい製品の提供	○	
・有害性の少ない原材料の使用	△	



課題を解決しチャンスを活かす取組	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・技術の継承	△	技術の継承から客先のグループ内で良い評判が広がったことで連鎖的に特定の仕事の受注があった。また、新分野での仕事受注もあり、こちらも既存顧客への展開を図っている。
・企業価値向上による顧客獲得	○	
・事業拡大のための資金調達、人材確保	△	
・新製品・商品開発	○	
・働き方改革	○	



グリーン購入への取組

使用量の多い洗濯洗剤やその他洗剤において、仕入先やメーカーに積極的な提案をお願いしており、仕入れの際にはエコマーク適合品の洗濯洗剤等を導入している。



事業所の取組紹介

<事務所内:ゴミの排出量測定>



従来は一般廃棄物の処理について、重量の計測が十分でなく、適正管理・削減活動をするにも指標を掴むことができなかったが、取組みを始めた後に一般廃棄物の運搬前に都度重量メーターで計測を行う習慣を作ることができた。

<倉庫内:新技術の導入による洗剤使用量の削減>



洗剤の使用量削減を目標に、写真の「強アルカリイオン電解水生成装置」を導入した。強アルカリイオン電解水は、「床洗剤」「除菌拭き洗剤」「洗濯洗剤の補助」「モップ漂白除菌剤」の代替となるため、洗剤の購入量を削減することができる。本装置では水道水を電気分解して強アルカリイオン電解水を生成するため、化学物質を一切使用しない洗剤となる。使用後は空気と反応して通常のpH濃度になるため、排水に害はなく、また洗剤拭き後の水拭き(後追い拭き)も不要になり、作業工数カットにもなる。

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果，並びに違反，訴訟の有無

環境関連法規制等名称	該当する設備・項目
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物の保管・排出・処理
化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）	第1種指定化学物質の保管、管理
下水道法	排水設備の設置
労働安全衛生法	SDSの保管
毒物及び劇物取締法	有毒化学品の保管、管理
家電リサイクル法	特定家庭用機器の適正廃棄
グリーン購入法	環境物品の購入努力
フロン排出抑制法	業務用空調機・冷凍庫・冷蔵庫の点検・記録
顧客要求事項	環境管理、品質管理

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要望等

外部からの環境上の苦情等はありませんでした。

代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2023年9月20日

2022年夏よりアルカリイオン水生成装置の導入を行ったことにより、水道水の使用は増えた一方、洗剤の購入量が減り、持続可能でエコなサイクルを確立することができた。ガソリンについても、組織体制の変更により削減傾向にある。一方で電気・ガスの使用量が増えており、また価格の高騰もあり、事業活動にも影響が出ている。今後は、二酸化炭素の排出が少ない電力の導入や温水洗浄工程の見直しにより、更なる対策を奨めていく。

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☒ 変更なし	☐ 変更あり
実施体制他	☒ 変更なし	☐ 変更あり

代表取締役 三木 明枝

これまでの環境活動の紹介



事務所前での清掃活動の様子

□編集後記

洗剤に代わる専用液を水道水から生成する「アルカリイオン水生成装置」の導入をきっかけに、社内で「エコ」への機運が高まり、以前より気になっていた環境認証の一つであるエコアクション21への取組みを始めた。書類作成を進める中で、「まだまだ」な部分や、「思ったよりできている」部分の発見があり、認証取得をゴールとするのはもちろんだが、取組みを行う中で気付く部分も多く、申請準備段階の時点で「取組みを始めて良かった」と思えた。未だ取組みを始めていない企業のモデルになれるよう、今後も活動の質を高めていきたい。